

自立活動の成果、提案・交渉型の関わりを生かし

運動会で得た達成感



運動会のシーズンも終わり、紅葉の時期を迎えようとしています。

本校では、10月5日に小中学部の運動会が行われました。運動会という行事は「大好き!」という子どもだけでなく、「ちょっとしんどいなあ。」と感じる子どもは、どの学校にもいると思います。その中には、周りの音がうるさくていやな子、走るのが苦手な子、注目されるのがいやな子、ダンスが苦手な子・・・と理由は様々だと思えます。今回は、「できた!」と感じ、笑顔で運動会を終えた本校の子どもと担任の取組について、ご紹介します。

## まずは、日常が大切!

普段の担任との信頼関係、取組が前提にあります。

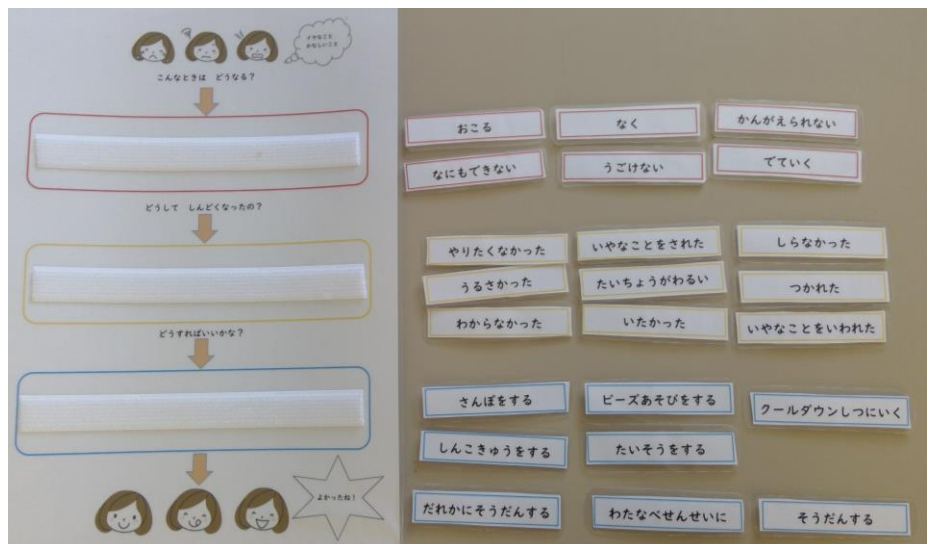
しんどいことを言葉で他者に伝えることは、とても難しいものですが、そうすることで、泣いてしまう・飛び出してしまう等の行動化することは、少なくなります。

Aさんは、週に2回(1回20分程度)、友達と一緒に、自立活動の中で写真の教材を使用し、気持ちの言語化を目標に取り組んでいます。

←  
どんな様子になったのか?

←  
なぜそうなったのか?

←  
どうすればいいのか?



実際に「しんどかったな。」と思ったエピソードについて、それぞれの色の四角に横にある選択肢カードを選んで入れます。  に入れる選択肢には、回避する行動、相談すること等が混じっています。

Aさんは、普段の取組の中で、自分の表情や言葉で他者に気持ちを伝えたり、一緒に解決方法を考えたりすることができるようになってきていました。また、回避する行動だけでなく、他者に相談する行動を選択することが増えてきています。

次に運動会の取組について紹介します。

運動会の高学年種目『キッズソーラン』が提案された時には、表情が曇りました。

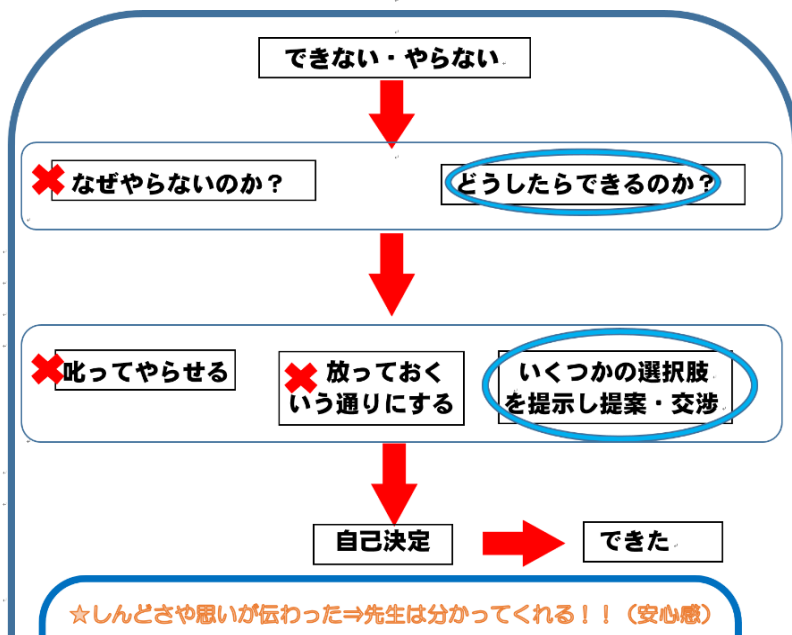
が、表情だけではなく、「踊れない。」と担任に言葉で伝えることができました。

そこで、担任は・・・「みんなと一緒に同じことをしなければいけない!」ではないのです。

いつもお薦めしている提案・交渉型の関わり(和歌山大学・武田鉄郎教授)です。



★★提案・交渉型の関わり★★



←「教育支援部だより H30年度 7月号」

- ① 太鼓をたたく
- ② 大漁旗を振る

イメージの持てない大漁旗について、画像等を見せながら説明→漁師さんからお借りした本物の大漁旗を提示

「これならできるかも？」 ②を選択

持ち手を短くして、本人に合うものに作り替えました。

「すごい風だった。でもできた。」



今回の A さんの成長は

★「踊れない。」と伝えられたこと。

★太鼓、大漁旗の選択肢を提示され、選択できたこと

★自分で選択したことを緊張の中でやりきれたこと

だと考えます。

達成感を感じられて  
いるようでした。